

第2期第12回生涯学習センター運営協議会

〔日 時〕2015年3月22日（日）10:00～12:00

〔場 所〕町田市生涯学習センター 6階学習室2

〔出席者〕※敬称略

委 員：石川清（会長）、小川久江（副会長）、岩本陽児、佐合昭浩、富川尚子、西原要四郎、花田英樹、布沢保孝、二見秀太郎、柳沼恵一、吉川雅子
以上 11名

事務局：稲田センター長、外川担当課長、松田事業係長、
村田担当係長、齋藤担当係長、小林主任、中村主事（記録）

〔欠席者〕太田美帆、押村宙枝、菅谷万里子、辰巳厚子

〔傍聴人〕1人

〔資 料〕・第11回生涯学習センター運営協議会レジュメ

- ・2015年度生涯学習センター事業 企画書兼事業評価シート（案） 資料1
- ・2014年度生涯学習センター事業 企画書兼事業評価シート 資料2～資料12
- ・2014年度生涯学習センター運営協議会 事前提出意見
- ・2014年度生涯学習センター事業 企画書兼事業評価シート 報告1～報告20
- ・2015年度の協議会の流れについて（当日配布資料）

<次年度の協議会の流れについて>

事務局：2015年度以降は2時間の協議会を二分し、前半1時間は事業全体のあり方、方向性について、後半1時間で、新事業評価シートに基づき協議いただく。2015年度は市民大学について協議いただくにあたり、大きく4つに分け、4月から6月は市民大学の概要説明、他事業との関連性について協議し、7月から9月にプログラム委員との意見交換、他自治体の市民大学事業の調査を行う。10月から1月にかけて今後の課題と方向性について協議し、2月から3月でとりまとめ、報告書を作成することとしたい。

事務局：1997年に策定した「町田市民大学HATS推進計画」を配布させていただいた。市民大学がどのような経緯で成り立ってきたかを理解していただくための資料である。まちだ市民大学HATS運営協議会と事務局が共同し、2年半かけて策定したもので、具体的な方針、市民大学が直面する課題が示されている。「計画の性格と位置づけ」でも記述があるように、生涯学習推進計画と市民大学をどのようにすり合わせていくかが、今回協議いただくにあたり大きなポイントになると思われる。当時の課題や改善点も示されているので、参考にさせていただきたい。

（意見・質問）

会 長：ページ最後にある年表は現在のものを追加したのか。

事務局：2011年までの市民大学のまとめで作成したものと、修了者団体に配布する冊子に添付されているものと同じものを付け足した。

会 長：4月から議論を進めるに先立ち、是非読みこんでいただきたい。

<次年度の事業評価シートについて>

事務局：前回いただいたご意見について、継続事業か新規事業か、企画書に明記できるようにした。また、受講率について、定員を下回った場合は、各回で受講者を募集するため、回によって受講者数変動し、分母が定まらない。そのため、分母はこれまでどおり募集定員を基準とし、

定員を下回った場合は受講率の数字が低くなってしまうことをご理解いただきたい。

(意見・質問)

会長：募集定員を分母にしてしまうと、知りたい情報が明確にならないのではないかな。

事務局：受講率は、応募に対してどれだけの方が実際受講したのか、また、受講者がどのくらい継続して参加したのか、という2つの意味合いが含まれている。

会長：定員を下回った場合、定員数を分母にしてしまうと正確な数字が把握できない。

事務局：例えば、申込はしたものの、1度も出席しなかった人の扱いはどのようにするのかという問題もある。募集人数に対し、どれだけに参加があったかの対比を見たいので、数字のみでの読み取りは難しいが、分析をしていかなければいけない。

委員：募集定員に対する出席者を算出する定員充足率と、実際の出席率を分離させてはどうか。

会長：実際の出席率は全ての回が終わった時点で追加募集した分も分母へ足し上げればよいのではないかな。裏読みするのではなく、ひと目で情報が把握できるような数字にすべきと考える。

委員：定員に対し、どれだけの人数が参加したかというのが最も大きな捉え方であると考えます。また、もうひとつは受講確定者数を出席者数で除した数が、いわば実際の出席率に近いものである。多少の変動はあっても、受講確定者数は一定の規定に基づいて定義できるのではないかな。

事務局：追加募集した人数や、キャンセル数も考えると、分母が非常に曖昧になってしまう。

委員：各回の申込者数、実際の出席者数を足していけば正確な数字が出る。申込後のキャンセルについては欠席と捉え、反映させればよいのではないかな。

事務局：次回の事業評価シート提出時、試しに定員充足率と出席率を分けて算出する。

委員：定義があやふや、そんなに受講者確定数は動くものなのかな。たとえば、50人募集して30人が応募したら30人を受講確定数とすると単純に考えていたけれど、そうではないのかな

事務局：講座による。アートの講座では、定員に満たしていなかったが、途中参加の受講者が5、6人いて、欠席者など出てきて最終的に何人受講したのかわかりにくいケースもある。

委員：定義の問題であり、受講者確定数を先に述べたように定めれば、数字は出る。それを分母にしてのべ受講者数を割れば、一種の出席率が出て、今の受講者率とは違う意味合いの数字が出てくる。

事務局：全体としては、名前を登録した人(応募者)を分母として、実際に出席した人を分子にすれば、出席率として出る。

会長：今も途中で参加する人が出てきている、その人を分母に足せば、できるのでは。

<協議事項>

1、2015年度生涯学習センター事業の企画について

(1) 第10回まちだフレッシュコンサート

事務局：近隣大学等で音楽を専門に学び、今春卒業・修了した若い音楽家6人が順番に演奏する。演奏者が自身のプロフィールを紹介するようなスタイルで、昨年度好評だったので今年も行う。事前のご質問のなかで、委員の皆さまからご意見を賜っている。直前で、キャンセルがあれば、臨機応変に対応したいと思っている。

(意見・質問)

委員：大学を選ぶ基準は？

事務局：まず、町田市の近隣の音楽関係を学べる環境にある大学としている。

委員：(そのなかで)個人の選出は？

事務局：大学に推薦依頼状を出して、その中で過去ないし現在、町田市に在住したり、なんらかのかたちで町田市にゆかりのある方を推薦していただく。

委員：今回第10回ということで、過去50名くらい出場している。そのなかで、著名な芸術家やオーケストラに入っている人材がいれば凱旋公演など考えられるのでは？

事務局：記念すべき10回公演ということで、そういった意見やアイデアは企画の段階で担当職員のなかで出たが、今回はスケジュール等の関係で実現にはいたらなかった。

会長：音楽関係の大学というのは、この4校(桐朋学園大学、武蔵野音楽大学、桜美林大学、昭和音

楽大学)に限るものなのか。もっと拡大して募集をかけるなどしては。

事務局：依頼を出したが回答がなかったケースなどもある。

会長：どこに宛てた推薦依頼なのか。

事務局：文書としては学長宛になる。

会長：封筒のあて先は？学長宛に出しても、該当者全員に同じ情報が伝わらない可能性が考えられるのが、心配される。

事務局：以前、コーディネイトの方がいらしていろいろな大学でやっていたので、その頃からの継続でやりとりしている行き先に届くシステムになっている。

会長：継続して送付しているのに、回答がなかったということがあるのは、どこかで情報が止まってしまっていることも考えられる。

事務局：今一度、調べることにする。

委員：事前の調査で書き損なったものだが、ピアノ、オーボエ、フルート、打楽器、ピアノ、サクソフォンと演奏楽器があげられているが、楽器を指定して依頼しているのか。大学に依頼したら、ピアノ奏者ばかり、フルート奏者ばかり選出してきたなどなりえないものなのか。

事務局：依頼文の中でジャンルについては、クラシック音楽に限らせてもらうと指定はしているが、楽器を指定しての依頼はしていない。むしろ、町田市にゆかりのある演奏者ということに重きを置いている。

委員：聴くほうとしては、演奏楽器が分散したほうが、初心者が聴く場合もわかりかし興味を持てるのではと思う。

事務局：2014年度5月に開催したときは、7名が出場した。偶然マリンバが2名、声楽（ソプラノ、テノール）が2名、サクソフォンも2名いて、バイオリンが1名となった。楽器としては3種類と声楽2名となった。年によって、傾向は違うかもしれない。

委員：MCがいて解説をするという流れか。

事務局：曲紹介を含めて演者がしていくかたちになる。そのスタイルが昨年からも来場者からも好評を得ているので、今年度も続けて行う予定。

会長：重奏、合奏しようなど可能性はあるのか。

委員：できれば、4大学、弦楽が一緒にやるなど、学校教育を公民館がつなぐようなことができればと思うのだが、いかがか。

事務局：合わせる時間がない。1回だけ、前日ホールを予約して自身の音合わせをしていただき、当日本番という状況。場合によっては、リハーサルもできないこともある。

委員：スケジュールなどの都合は、全て事務局で背負い込むのではなく、学生同士になげかけてはいかがか。それぞれの大学に練習場はあるのだから、彼らがやろうと思えばできるかもしれない。

委員：和光大学ポブリホール鶴川で若者の水曜コンサートで、四重奏、三重奏というものをやっているが、やはり聴いていて楽しい。その大学に投げかけるようなかたちが、本当のコンサートになると思う。また、違う企画としてできるものかもしれない。

事務局：まちだフレッシュコンサートをきっかけにして、次につなげるというのはありなのかと思う。

(2) 親と子の交流ひろば「きしゃポップ」

事務局：きしゃポップを月3回、父親対象とした「パパと一緒にきしゃポップ」を月1回開催している。今年度もまだ実施が残っているため終わらない状態だが、集計、企画書を出している。前年までと内容を変える予定はない。参加者の人数などにより、内容を臨機応変に変えていく。昨年の傾向としては、後半から「パパと一緒にきしゃポップ」の参加者が増加しているので、予算との兼ね合いをみながら父親向けの企画を考えていってもよいかと思っている。事前にご意見をいただいた部分で、お子さんの体調管理についてインフルエンザや風邪については当然気をつけて実施をしなくてはならない。保育士と職員でお子さんの様子は常に見ている。様子がおかしい傾向が見られる場合は、すぐに声掛けを行うことを徹底しているため、引き続き、継続していきたい。

(意見・質問)

会長：保育士は職員なのか。

事務局：臨時職員である。

(3) 和光大学共催講座

事務局：4回目となる和光大学・町田市生涯学習センター共催講座で今回は、セクシャリティとジェンダーがテーマとなる。タイトル(「(仮)“オネエ”・アニメ・シネマとジェンダー～現代社会に見るセクシャリティとジェンダー～」)は、まだ仮となる。

(意見・質問)

委員：これで4年目となるが、大学院のポストモダンに始まって、去年はアジアの特集、その前は現代の神話というテーマであった。なかなか大学の教員が顔を合わせたり、市民の皆さまにお話しする機会もないので、良い機会である。評判が良く、最後に受講生と教員との交流会も開催するなど、和気藹々とした雰囲気にもなっている。今後とも宜しくお願いたします。

事務局：午前中の講座である。他の講座との兼ね合いで保育がつけられなかった。

会長：仮の題ということだが、「オネエ」はどこにかかるものなのか。点でつけてあるので、区切りは「オネエアニメ」「オネエシネマ」になるのか。

委員：まだ、名前は変わるかもしれない。

事務局：インパクトあるタイトルにしようという意図でこのようなタイトルにしてある。

委員：和光大学は女性学の講座が日本で初めてできたところであるので、前回配布パンフレットの市民大学の講座にもある井上輝子さんの後継者を含めて、各学部から面白そうな人をピックアップしているので、面白い講座になると思っている。

(4) 小島資料館共催講演会「小島家古文書の中の新撰組記事」

事務局：東京都の有形文化財である小島資料館が一般公開されることになり、資料館のほうからお話がいった。生涯学習総務課の件ではあるが、今回は生涯学習センターで受け持つことになったものである。短期間に3回講演会を実施する。

(意見・質問)

会長：事業区分としては何になるものか。

事務局：小島資料館との共催講座になる。

(5) 2015年度市民企画講座について

事務局：この後の事業評価で報告するが、2014年度は5つの市民企画講座を行った。この5つの講座を企画運営された団体が一同に会した振り返り会が3月16日に開かれ、それぞれの団体から活動、講座の報告、実績の報告がされた。お互いの団体への質疑応答などが行われ、とても活発な会となった。2015年度の募集要項について、サークル、団体活動のなかでもっと学びたいと思うこと、疑問に思っていることを学習講座にして、多くの皆さんと一緒に学習しましょうと書いてあるように、受講者にとっても学びであると同時に、企画を出した団体にとっても学びである「相互のまなびあい」ということが2015年度の特徴である。

4月1日に広報等でリリースされ、18日に説明会を行う。申込については、そこで申込書を配布し、終了後から申込書の受付をする。講座のテーマは今回は設けていない。5講座の条件を採用するかたちになる。

(意見・質問)

副会長：応募はかなりありそうか。

事務局：前は20件、前々回は14件だった。

委員：去年に比べて応募が極端に少なくなっているのだが、どういう理由でそうなったのか。

事務局：今年度応募者20名だが、もともと5分野(5団体)募集していて5講座となった。今年度1年は分野を決めているが、来年度は決めていない。

委員：分野を決めていないのはなぜか。目的を変えたからか。日頃の活動団体ということに重点を置き、あまり分野を縛ってしまうと特定のテーマ(分野)に集中してしまいそこだけが競争が激しくなり採用されないということが考慮されたのか。

事務局：どちらのテーマ(分野)かというところで、狭まってしまったところはあった。

委員：採用されなかったテーマ（分野）も後で別のかたちで使ってもらったというケースもあったよ
うだ。柔軟に対応してほしい。

会長：去年、センター事業にまわったのは何件くらいあるのか。

事務局：成年後見の講座、アートの講座、コンサートの3つである。

事務局：もともと市民目線の講座ということが主体であるので、アイデアをいただく部分やこういった
目線があるのだという部分をいただき、市民企画講座ではやらなくてもほかのことで市民目線
のアイデア募集の場にもなっているといえる。

2、事業評価について

（1）中学生の保護者のための講座「中学生の今と未来を応援するために」

事務局：今回4回連続講座でテーマもスマホ依存や、少年犯罪、就労事情などかなり重いテーマで心配
された面もあったが、実際かなり各回とも重い回答はいただいた。熱心に聞き入っていただき、
講座の後半に話し合いの場を設け、かなり活発な意見交換が行われた。回によっては、話し合
いの時間が短くなり受講者の方の不満が出たこともあったので、それが改善点であったと思う。
来年度以降については、小学生の保護者向け講座でもあったように、集客について考えていか
なければならない。また、それぞれのテーマ設定や対象について組みなおしていかなければなら
ないと思う。一つは小学生、中学生の保護者と対象を区切ってしまったことで、これから子
どもが中学生に上がる保護者が参加しづらかった点や小学6年間を括ると随分対象がばらけ
てしまうので、思春期という括り方もできるかと思う。その点を、来年度は組みなおしてい
きたいと思う。

（意見・質問）

会長：思春期として括るとのことだが、事業名についてか。対象のことか。

事務局：事業名も、対象も両方である。

会長：事業名は中学生でもよいのでは。事業名を中学生として、対象をこれから中学生になる保護者
もはじかないように、周辺の小学校高学年にも広げるなどしては。

事務局：いずれにしても、わかりやすくという点が大事なのかと思う。事業名をどうするかという点も
必要かと思う。

会長：対象をこれから中学生になる保護者も入れるとか、中学生以下ということが考えられるのでは。

副会長：「思春期」という言葉の範囲が、とてもわかりづらいのでは。

事務局：もともと募集自体は、中学生と書いてあるが中学生以下の保護者も募集はしているのだが、ど
うしてもタイトルに目が行ってしまうことがあるので、考える必要があると思う。

会長：それを絞ったから参加者数が少なかったというのはあるのか。そうではなくて、講座が組みに
くかったということか。

事務局：どちらかという「中学生の保護者のための講座」はよかったが、小学生が広すぎるとい
うことがあった。小学校高学年から中学生のほうに共通の課題があるように思う。小学生、中学生、
合わせて組みなおしていく必要があると思う。

委員：「中学生の保護者のための講座」に小学校高学年の保護者を含めた対象ということだが、事業
名に「中学生の保護者」と入っているので、やはりタイトルをみて応募することが多いと思う。
タイトル（事業名）時点で対象者を限定しているように思うのだが、変えたとしたらどんな案
があるのか。頭に「これから」を入れる等。

委員：今の状態なら、普通はタイトルだけを見て来ることが多いと思う。対象というのは、タイト
ルの次に見るものであるのだから、見落とす人もかなり多いと思う。

事務局：家庭教育対象と比べて「小学生の保護者のための講座」というのは学校教育とはなんだろうと
いうシステムの話である。学校教育に子どもが初めて入って行く段階で受けてもらいたい講座
になっている。「中学生の保護者のための講座」というのは、先ほど「思春期講座」と提案が
あったが、第二次成長期に入りこれから社会に入っていくあるいはそれを見据えたところの変
化であり、反抗期があったりするなどの時期を対象にした講座になる。今現在、その時期を迎
え、問題を抱えている保護者が来てくれるような、ぴったりのタイトルがあれば良いという議
論であると思う。

- 委員：対象に対してそのままストレートに伝わる表現が必要である。ここにいる人たちは、その思いは合致していると思う。やはり、(対象よりも)ポスターやチラシを見た人たちはタイトルで判断しているのが多いのではないかと。だから、現状では狙いが外れていくのではないかと。思う。
- 委員：単純に参加数を増やすということであれば、PTAの組織を活用し周知などをすれば、簡単に助けはできると思う。
- 会長：そういった動きをとることはできるか。
- 事務局：できる。動き出しが遅くなってしまうと会議とのタイミングなどもあるが、早めに動き出せばできると思う。
- 委員：町田市の場合、中学校のPTA連合会というかなりしっかりした組織があるので、そこへの働きかけというのが妥当なのではないかと思う。
- 会長：タイトルで代案だが、メインタイトルだけにして、(タイトルの「中学生の保護者のための講座」を削除して)対象で具体的に言うのはいかがか。
- 事務局：もともと「中学生の保護者のための講座」は講座の位置づけ的なもので、タイトルは「中学生の今と未来を応援するために」になる。そこで内容といかにマッチした人を惹きつけるタイトルにしていくことが重要だと思う。
- 会長：思春期というと、高校生も中学生もみんな入ってしまう。
- 委員：お母さんのための思春期講座などもあるので、いろんな使われ方がある。
- 会長：これから、考える必要がある。
- 委員：まさにこれから中学生になる子どもがいる。私はこういったところで学んでいるのでタイトルの年齢層に関係なく、自分が参加したい講座に参加していいものだという意識はあるのだが、やはり広報だけをご覧になって今まで関りがなかった方で同じ年頃の親御さんというのは、「中学生」というタイトルが広報に大々的に載ってしまうとやはり来づらと思う。事業名としての講座の割り振りのなかでは今のままでも良いと思うが、広報に載せるときには「小学生」「中学生」というのが大きく出て、対象が小さな見出しになってしまっているものを、工夫するだけでも、入学してからばたばたとするよりも事前に知っておきたいというこれから小学生になる保護者も多いと思う。「中学生の保護者のための講座」の講座名はそのままで、広報の仕方を変えていただくことでつながりは出ると思う。市民協働などそういったところへ広報を打てると、つてになると思う。とても内容は良いと思う。
- 会長：内容はヘビーなものであるが、回数は4回、応募者25名で延べ人数74名というのは良いと思う。
- 委員：学校教育の枠組みで、公民館でも小学生、中学生、高校生の子を持つ親などと切り方が多いと思うが、今保護者さんたちが不安になっているのが接続の問題がある。小学校から中学校に移行するときだとか、小学校に初めてあがるときに色々な不適応を起こして困っていることが多くあり、その分不安がある、その分ニーズがあるのではないかと。このごろの書籍を読んでも、いじめの問題にしてもネット依存にしても小学校から中学校に入ってからなるときにネット依存やスマートフォンの常時接続などが始まる報告されているので、見方を変えて、つながりの時期にフォーカスをあてるような講座があってもよいのではと思う。
- 会長：大学についても、今年のテーマで「高大接続」があげられているものがあつた。やはり、今後「接続」部分については問われる問題だと私も確かに思う。

(2) 市民企画講座「町田で自然災害発生時何をすべきか ～東日本大震災の教訓から学ぶ～」

事務局：まちだ陸前高田復興支援の会が地域づくりのカテゴリーで応募されたものである。東日本大震災を風化させないために、また自然災害に備える心構えを喚起させるため、朗読、映画、絵手紙制作、パネルディスカッション形式など多様な学習形式で4回に渡り講座を行った。

(意見・質問)

- 委員：募集定員154名に対して応募者数が163名ということですが、9名の方にはお断りしたということか。
- 事務局：こちらの募集の仕方がイレギュラーで、4回連続の講座で、4回連続受講者をまず100名募集して、各回単発の募集定員を50名にする形式をとった。

- 会 長：こんなに数字が上がっているというのは、なにが影響していると考えなのか。今までの中でも、そういうことができたと思うし、出席率がどうしたら上がるのかと思う。
- 委 員：私はこの講座に1回を除いて参加した。非常に感銘を受けたプログラムだったと思う。これだけ人がよく集まったというのは、企画側の方が相当いろんなところに呼びかけて、かなり前から知らされてあったので、いよいよ実施されると思い期待をもって迎えた。内容は、前半は映画とか朗読劇などでやわらかく伝えることができ、後半はいろいろな関係者のお話があり町内会自治会などの試みなどが紹介されて、非常にうまくできたプログラムだった。企画書兼事業評価シートも、オールAで確かにその通りだと思った。

(3) 学生活動報告会「東北復興ボランティア展」～つなげ!笑顔と愛のバトン Let`s go to 東北

事務局：資料に追記していただきたい点がある。企画書兼事業評価シート、左ページにある「申し込み方法」は「来館受付」に丸の追記をお願いしたい。こちらも、被災地支援についての事業である。被災地支援のボランティアをした学生の活動報告会は、昨年度2013年度も行き発表形式のみであったが、今年度は準備の段階から学生を巻き込み積極的に提案を取り入れた。内容としては、午前中は学生が大学を横断して6つの小グループに分かれ話し合い、学生の横のつながりができた。午後は被災地から講師を招いての講演を、一般の市民と共に聞いた後、各団体の活動紹介を行った。シート内にもあるように、市民の方からは学生の頑張る姿に対して温かい声をいただくことができた。

(意見・質問)

- 会 長：学生というのは、具体的にはどんな学生になるのか。
- 事務局：大学生である。
- 会 長：どこかに集中的に募集をしたのか。
- 事務局：昨年度出ていただいた団体に声を掛け、引き続き来て頂いた。同時に共催先であるさがまちコンソーシアムから推薦をお願いした。
- 委 員：2月11日は出られなかったが、その後も展示を出していたのは、よかった。ぜひ来年もやっていただくと良いのだが、地元との関係のなかでもうこれ以上入ってもあまり意味がないということで解散にするという状況もあるようだ。直後というのは助けてきてくれる方皆さんありがたけれど、継続して支援していく中でいろんな地元の事情が表面に出てきて、難しさを感じているということだった。よくやっていたと思う。
- 事務局：大学やサークルの中でも新しい新入生が入ってきたときに、引き継げなくなっているという問題もある。実際、法政大学が去年は来ていたが、今年は来なかった。玉川大学に集中してしまっている。玉川大学は熱心に取り組んでいて続いているが、その中でも継続が難しいという話はあった。

(4) 生涯学習ボランティアスキルアップ講座

事務局：ボランティアバンクの登録者を対象にスキルアップの講座を実施したその結果になる。現在の登録者64人すべての方に通知を出したが、参加者は1/3程の20人であった。担当者としてはもっと参加してほしい。ご意見にもあるように、皆さんそれぞれで活動されていて忙しいということは前提で考えなければならないものの、ボランティアバンクの質を高めていくうえではまず主旨を共通理解したうえで活動していただくことが前提であると思うので、こういった機会はぜひ参加していただき、共通認識を進めていきたいと思う。中身について基本的には皆さんいろんな知識や経験は持っていると思うが、それを人に伝えたりするときに必要になってくるスキル、例えば相手のニーズの読み取り方や限られた時間内で自分の伝えたいことをどういう風に伝えるかなど、そういったところを中心にグループワークを通じて取り組んでいった。今回、講師をお願いした辰巳講師もおっしゃっていたが、それぞれの登録者の方によって違った課題があり、全体のスキルアップの講座は続けて行くとして、個別のフォローアップについてもやって行く必要があるのかということと、さらに具体的なテーマを設定しながら継続的に取り組んで行くということになった。

(意見・質問)

- 委員：今ボランティアバンクに登録してらっしゃる方は何人か。
- 事務局：64人である。
- 委員：それが募集定員ということか。
- 事務局：全員に通知を出してということになる。
- 委員：そうしたら、1/3の応募があったということになる。
- 事務局：こちらから、改めて声掛けを行った結果、1/3の応募となった。場合によっては、自分にはスキルアップは必要ないと感じてらっしゃるという可能性もある。そのあたりは課題になる。
- 委員：ボランティアバンクに登録してらっしゃる方の意見を聞くと、やはり同じようなことをおっしゃる。対象を一般の人たちとするのか、ボランティア活動をしている人たちに教えるということになるのか。自分の持っているスキルをボランティア活動をしている仲間に伝えるとなると、自分たちの活動範囲が制限される、狭くなるという発想を持っている方たちが随分いると感じる。私も参加しているのだが、誰も手を挙げないので、うちがやろうかということを受けている。対象者を一般というかたちで募集するのであればやりたいが、制限がないのであれば自分のスキルを他所の団体に持っていかれるからやりたくないという方が多くいるという現状が引っかかる。そのあたりは、どう考えるか。
- 会長：それはボランティアの精神に反しているのでは。
- 事務局：ボランティアバンクの理念や主旨が伝わりきっていないところである。自分の知識を人に役立ててもらい伝えるなかで、それが自分に返ってくるなかで自分にとって学びになるということを広げていきたいというところがある。
- 副会長：そこに価値を持っていける人ではないといけない。
- 会長：そういう事実があるということで検討していく。
- 委員：川崎市をみていたら生涯学習コーディネーターということで、公民館にやってきた人に声を掛けて「こんなことをやりたいのだけど」ということを聞き出して、市民を学びの世界に引っ張ってくるような存在に力を入れようという動きがあり、講師として呼ばれることがあった。町田市の生涯学習ボランティア制度についてはよくわかって、64人が登録しているが、今一つ折角登録したのにお呼びがかからない方がいるということは、制度設計をもう一度見直して、登録している方が核になって他の市民も引っ張って来られるような仕組みづくりを考える余地も有りはしないかと思うのだが、いかがか。
- 委員：制度化したものを案内していくコーディネーターというあり方は、当然生まれてくるものだと思う。担当者が依頼するにしても、わりかし気楽な面というのが出てくると思う。そうでないところがあるところに、自分のスキルをとられるというような、人間の欲みたいなものがあると思う。それを解消するためにも、コーディネーターなどの制度化をしてもらったほうが良いと思う。なぜかというと、今年の1月に市役所で成年後見制度のお願いがあった。町田市が制定し、市が認定し外では通用しないというもので、ある程度年齢制限も必要になってくるものだが、そういった状況を踏まえると以前に町田市でもコーディネーター養成講座が始まったときに、ある程度町田市だけでもせめて認定してほしいと申し上げたのだが、色々な事情で実現しなかった。やはり、小さな枠なりの制度化というのはあっても良いのではないかと思うが、いかがか。
- 事務局：非常にお答えしづらいところではあるが、一つの課題としてはまだ制度として広まっていないくて、人と人をつなぐ役割を担うのが市民になる、市民が市民と市民をつなぐという考えがあっいていいのではないかという話なのだが、行政が使ってくださいと呼びかける形式と市民が口コミのようなかたちで広がりをもっていくという形式があると思う。行政側は関係機関に働きかけを図って行くというのは継続してやっていくが、市民の方が「こういう制度があるよ」という広がりを持たせていく部分でご協力を仰ぐ必要があると考えている。具来的な制度化のお答えはしづらい部分はあるが、広がりを持たせるところで行政だけがこういう制度を作りましたというだけでは限界があると感じている。
- 委員：ボランティアの登録者というのは、どういう人が、どんなジャンルで、どの程度のスキルを持っているというのはどうやって知ることができるのか。
- 事務局：HPで一覧を載せている。登録者の一覧の冊子は、生涯学習センターにある。冊子は高齢者施

設などの担当者にも配布している。それぞれの方が具体的にどんなスキルレベルかというのは、一覧には載せきれないので、ご相談をいただいておりますというかたちになっている。

委員：認知率は。

事務局：はっきり図ったことがないので、なんとも言えないが、低いというのは言わざるを得ない。

委員：まだまだPRが圧倒的に足りない。

事務局：併せて、以前から課題としてご指摘をいただいている点で市全体を見渡しても色々なボランティアの制度だとか、施設ごとでボランティアを登録しているということもあるので、ボランティアバンクの紹介をしてもたくさんあるうちの一つという認識になってしまうこともある。うまく連携をしてやっていくことも必要となる。

委員：来年度、ポータルサイトを作ることが確か載っていたが、時効になっているのか。本来、横のつながりの連携をとらないといけないと思うが。

事務局：ポータルサイトは確かに計画には載っているものである。構築するには予算等が必要になってくる。予算等が厳しく、作ることが結果としてできなかった。現在あるホームページを活用し、より見やすくし、見ていただく方を増やし、更新回数を増やすなどできることからやっというこで取り組んでいる。ポータルサイトの構築については諦めたわけではないが、計画通りにいっていないというのが事実である。

委員：私の場合は、登録する方と利用する方の両方で登録している。ニーズがあれば、センターに訪れて調べるということだろう。内容的にどのようなボランティアが登録されているのかということは、生涯学習センターに来れば、あちこちに置いてある。それを調べれば、きちっと自分が要求するボランティアがあるのかということは調べられる。実際に私は両方登録しているが、ボランティアする側で1、2件の利用申し込みがありやっている。今度は講師をお願いするためにボランティアを使用する側で、センターで相談して調べるとそれなりに件数があつた。また、ボランティアを登録している人というのは、たいてい自分で色んな活動をしていて、スケジュールの調整がつかないこともあつた。ボランティアではやっているが交通費をお願いされるケースもあるし、交通費代わりに千円と駄菓子の手土産をお渡しし喜んでもらった。その程度で良いと思う。それを今後、有償にしたいという要望もあり、一人500円を徴収するかたちで一度開催したが、受講する方に負担もあるので、自分で勉強してみようとも思っている。ボランティアで登録している人も千差万別でいるのだが、かなり活発にやられている方こそ有償でやっというこで「ボランティアを登録したのだからなんとかしてくれ」というような人はあまりない。自分でどんどんやっというこで「ボランティアの依頼があつてもいいよ」というような方がかなりおられる。ということで、64人登録していて参加が21人という数字になっていて、残りの人は自発的にどんどんやっというこで参加しなくてもいいと考えているのではないかと。私自身もそうだ。ボランティアバンクの主旨というのはどうなのかと思うが、「ボランティアバンクとしてはここまでだが、私の教室では500円でやりますよ」という勧誘も実はされている。そういうケースもあり、非常にこのボランティアバンクのあり方が難しいと感じている。制度自体を老人会や町内会、自治会、学校、センターなどチラシを配るなどPRする価値はあると感じている。

委員：この制度をうまく活用するには、登録の促進と利用の促進がある。現状の64人、昨年は70何名と伺っていたので再登録の見直しをしたため少し減つたということのようであるが、登録者の実際の利用件数はどの程度なのか。先程の例もあり、センターを介さずにやられたというのもあると思うが、センターを介して発生した件数というのは実際にどのくらいなのか。

事務局：今年度、実際に活用に至つたのは約20件である。そのほかに実際依頼はあつたが、スケジュール等の関係で実現には至らなかつたというものは10件ほどある。今年度でいえば、あわせて30件くらいである。現在の登録者数64名というものは、もともと件数と人数の扱いがあるので件数自体は90件以上あるが、人数でいうと64名となっている。更新については、今年度で2年間となり、今現在更新をかけている状態であり、来年度は64名より少なくなつてしまつた点はある。

委員：利用の促進はというと、高齢者施設にも紹介しているような話があつたが、いつから行っているものか。

事務局：去年の6月ごろだったと思う。高齢者支援センターの方が集まる会議に参加をさせていただき、制度のPRをさせていただいた。

委員：反響はどうだったのか。色んな要望が来て登録者の中では、応え切れないということがあるかと思う。そういった時に、そのニーズをどうしていくかということになり、登録者を増やすことが必要になる。例えば、行政やNPO、町の商店の企業など、そういった方々を含めた勧誘の仕方も考えていかなければならないと思う。応え切れないニーズに対して、「今後適当な人がいたらご紹介します」という対応をするのか、もう少し具体的に足で稼いでボランティアとして登録してもらう努力をするのか。

事務局：先の話になると、当然企業等も含めて広げていけば、それだけ選択肢は増えるということはあるので、ゆくゆくは検討するという事も考えられる。現状としては、市民の方の掘り起こしはまだまだできていない。もっと色んな知識を持った方はいるので、その掘り起こしをした上で、次の展開を考えるべきなのかと考えている。

会長：24人ではニーズに応え切れるはずがない。増やしていく努力のなかで、ボランティア精神を理解してもらいながらやっていくということだろう。

委員：タイトルをスキルアップとしているから、資格を持っていたり活動されている方にとっては「スキルアップする必要なんかない」という人が相当おられると思う。

会長：「スキルアップ」という言葉が鼻につくということになり、うまく理解してもらうことは必要かもしれない。

(5)「心に残るオカリナの調べ」オカリナ&ギターコンサート

事務局：当日はオカリナに関するエピソードや、馴染みのある曲の演奏で、オカリナに親しむことができました。一方で当日の来場者の人数を把握することが難しいというような意見もありました。

(意見・質問)

委員：この講座は非常に難しい問題だと思うのだが、オカリナの楽器そのものが人の手が変わると音色が変わってしまう、そのためにオカリナを作る人の派閥みたいなものが町田でもいっぱいある。だれが先生であるのかで変わってくる。一つの講座で勉強したとしても来た人は、その講師が作ったオカリナでないと同じ音色は出ないことになる。そこまで理解して、のめり込む人も大勢いらっしゃるが、そういうことを考えればかなり良い参加率だと思う。また、その類のものはどんどん講師を変えて広げていってほしいと思う。市民大学の陶芸教室のメンバーも作れる人はいる。いい陶芸スタジオも持っているので、そこでやればいいものを作ることもできると思う。そういう点で、すごく多様性をもった講座であるので、どんどん広げていってほしいと思う。

(6)環境講演会 異常気象と地球温暖化

事務局：NHKニュースの天気予報キャスターを務められる方が講師であり、認知度が非常に高い方を起用したため、募集開始後すぐに募集定員が埋まり、受講率も非常によかった。当センターでは、市民大学の募集について、また共催先の環境・自然共生課からはライトダウンキャンペーンについてタイムリーな話題を提供したほか、防災安全課からはハザードマップといった資料提供があり、市役所の色んな課が一つの事業に係った一つの例となる。

(意見・質問) なし

(7)市民企画講座「わたし流子育ての見つけ方」

事務局：鶴川市民センターで行った地域に出て行った講座で保育付きだった。定員が少なかったこともあり、それによりきめ細かい話し合いが持ててよかったというような感想が出た。

(意見・質問)

委員：企画書兼事業評価シート事業成果欄に「子育ての大変さの原因の追究は甘く、単なる「井戸端会議」的側面も多くみられ、学習としての課題が残った。」とあるが、井戸端会議になったというのはどんな面か。

事務局：講座が自分のなかに課題を見つけて行くような目的であった。講師の出したテーマに沿って意

見を出しあい、もう少しこうしたほうがいいのではないかと、そういう考えがあるんだ、ほっとしたということで、学習として広がりを感じなかった。学びを深め、受講者が次のステップをどう作っていけるかということが大事だと思う。子どもの権利条約が20年になるので、世界で子どものことをどのように考えているかなどを紹介してほしいという要望は出したが、遊びの部分の紹介にとどまった。

委員：井戸端会議は、私は悪いものではないと思う。とくに子育てはマニュアルがあるものではないので、自分が苦労している話を他の方に共感していただき、ざっくばらんに聞きあえる場合は、参加した人にとっては数字にもあるように、すごく有意義な場になったのかと思う。一方、担当者が言うこともわかり、あくまでも学習なので、そこにやはりもうワンエッセンス、学ぶということに対して意識を持ってもらえるように、市民企画講座の時には、運営団体に意識を向上させるというのも運営側の職員の方の役割であると思う。もう一歩頑張っていたいただきたいと思う。

委員：鶴川でやったということで、地域のまとまりができて、発展してほしいという願いはあったが、なかなか思うとおりにはいかないので、担当者からの評価は辛口になったのではないかと。井戸端会議という場合は、それなりに参加者全員が居心地が良いと思うからスタートするのであって、さらに担当者の指導力でもって学びにまで持っていければよかったのだが、時間的にもそこまですでにできなかったということで、次に期待したいと思う。

事務局：第一歩として「ここに来てもらえばいい」ということもあるので、おっしゃるとおりだと思う。

委員：色んな地域で別途やる計画があるものなのか。

事務局：センターとしては色んな地域でやっていきたいと考えている。

委員：鶴川は保育ができる設備があったが、他はないのか。

事務局：今回は、参加人数が多かったので、普通の会議室にカーペットを敷いて、おもちゃを持ち込んで実施した。

事務局：保育室については、他の市民センターは持っていない。主たる会議室に加えて保育室としてセットでとるような場所はあるのだが、だいたい和室だとか小会議室になり、きちんと保育室を持っている施設は生涯学習センターと、市民フォーラムなど中心市街地になる。忠生が新しくできた可能性はあるが、市民センターと呼ばれるところにあまりない。

委員：以前保育付講座をなるせ駅前センターでやらせてもらったときは、部屋を2つとおもちゃは持ち込み、保育士さんに来てもらった。保育付き講座を地域でやりたいと思ったときに難しさはあるが、なるべく双方で頑張っていてほしい。

(8) 現代アート「まちだのアーティストと今日のアートを知ろう」

事務局：市民企画講座に応募した2団体の協力を得て、それぞれの企画を合わせて実施した。参加者は定員を超える申込みがあったが回を追うごとに少なくなり、最終回を1ヶ月遅らせたこともあり8人となり残念だった。内容としては町田市に住んでいるアーティストから直接話を聞くというものであった。感想では、アーティストが何を考えて作品を作っているかがわかってよかったという感想が多く聞かれた。こういったものが積み重なって、どう発展していくのかを見据えながらやっていく必要があるのではというのが最後の感想である。

(意見・質問)

委員：時期が1月ごろではなく、秋口がいいという意味合いがあるのか。

事務局：外を歩くものなので、本当は3月になれば暖かいのではないかと考えたのだが、その日にかぎって雨が降って寒い日になってしまって、参加者が少なかった。おっしゃるとおり、秋口はよいかもしれない。

委員：かなり現代アート寄りの内容だと思うので、受講者が絞られてしまうのではないかと。どんな方が来られたのか。

事務局：感想がかなり専門的なことが書かれていて、自分で描いている方も多いうようだった。

委員：やはりその道に特化している方が来られたのか。

事務局：「自分は精神障害を持っています」とおっしゃる方が2人。「アートに関りながら生活を組み立てています」という方もいた。幅は広がったように思う。

委員：こころの問題のアートのような作品をつくってらっしゃる方がいるが、そういう観点から入ってらっしゃったということか。

事務局：そうかもしれない。4回目で赤い屋根という作業所の人たちとアール・ブリュットという障がいを持っている人たちが描くアート（本来はそれだけの意味ではないが、今の日本ではその意味合いが強い）に取り組んでいる方に話をさせていただいたのだが、そういったところだけに関心がある方もいた。

<報告事項>

1、事業評価の最終報告

事務局：報告1～5まで、資料のとおり報告する。

2、センター長報告

現在、平成27年第1回町田市議会定例会が、行われている。その中の一般質問が生涯学習部関連で2件でている。細野議員と三遊亭らん丈議員が質問されている。

質問としては、細野議員からは障がい福祉課の関係で「障がい児・者の放課後や就業後の居場所づくりを求めて」である。その中の一つとして「18歳以上の障がい者にも余暇活動として障がい者青年学級などのサービスの拡充をはかるべきかどうか。」として、障がい者青年学級という活動があるが制度として余暇の部分をなんとかできないかということが出た。地域福祉部が答弁をして、関連する部分で、実際に生涯学習センターがどういう活動を行っているのかという話を部長が答弁をした。三遊亭らん丈議員からの質問は図書館の関係で、「『ホンデリング』を町田市にも導入してはどうか。」という質問をされた。図書館の本で福祉のためのリサイクル活動ができないかという主旨の質問だった。図書館の本の場合だとブッカーというものを貼っているため、そういった導入は難しいということだった。

3月18日に文教社会常任委員会が行われ、予算の関係で質問等があった。生涯学習センターの関連では2件質問がでた。家庭教育支援学級の関係は佐々木議員、市民大学の関係は田中議員から質問された。こちらに関してはインターネット配信が行われているので、ご覧いただきたい。

お手元の資料で市民大学の募集案内があり、3月11日から募集が始まっている。ことぶき大学前期の募集は3月21日から始まっている。また、学習情報誌『生涯学習 NAVI 好き！学び！』春号が3月25日から配布をする予定である。

町田市立学校施設の開放に関する条例施行規則というものがあり、4箇所開放しているが、一部を改正させていただいた。開放日が週6日を週4日に、教室を16室開放していたところを12室に変更させていただいた。変更に関しては、実際に利用が殆どない曜日と教室を、整理させていただいた。

委員：図書館の本のリサイクルの話があったが、現実には今やられていると思うのだが。例えば、玉川学園のコミュニティーセンターでは、本を入れ替えると「どうぞご自由にお持ちください」というようなコーナーがあり、誰でも持って帰れる。さるびあ図書館でも、中央図書館でもコーナーを設けている。どういう基準でコーナーに出しているのかはわからないが、恐らく日付が古いものようだが、時々幼児用や低学年向けの本などを然るべきところに渡しているのだが。

事務局：実際には三遊亭議員からの質問で出たものは「ホンデリング」という制度で、本を売却してその収益を障がい者の方に渡すという運動があるので、図書館でも参加したらどうかということだった。しかし、図書館の本を売ることはできないので、できないという話になった。図書館での本の再利用の扱いとは少し違う話になる。図書館では、書庫に限りがあるので入りきらなくなったものや何年も借りられていないものを再利用しているというかたちになる。

3、東京都公民館連絡協議会について

委員：年12回、月1回開催されている委員部会が3月25日に開催される予定である。今回報告する事項はないが、事務局が今年度は福生市だったが来年度は狛江市となる。今年度の経験を踏まえてどういったことを引き継ぐかの話し合いの場となる。また、東村山市が退会するということが加盟12市だったのが、11市になる。それを受けて、委員部会として3月18日付けで役員会に要望書を提出した。非加盟市に対して再び加盟する呼びかけと、非加盟市の社会教

育関連委員に向けて情報交換や他市との連携を深める目的である委員部会の研修会に参加するよう情報提供を行う。また、退会せざるを得なくなった各市の状況と問題点を調査して、課題解決に向けた基礎的な資料を作成すること等が要望された。また、総会が4月15日にある。

事務局：関連して、職員部会の研修会として、教育委員会制度がここで変わることについて首都大学東京の荒井文昭氏の講演会を田無公民館で3月27日に行うことになっている。4月15日に総会があり委員部会の方にも参加していただくということで、町田市からは西原さん、二見さん、柳沼さんにご参加いただくということになっている。

<その他>

委員：報告書を確認させていただいたが、運営協議会意見の記入者欄に、「委員」と入っている方と入っていない方、記入者が欠落している箇所があったので、揃えていただきたい。

委員：お手元に市民病院の結果報告があった。信頼して関係を後に引き継いでほしいという思いから皆さんにお持ちした。宜しくお願いしたい。

委員：運営協議会の評価シートのコメント欄は、1週間以上前に開催通知と共に事務局から送付されるものであるため、必ず一読いただいて事前に意見を出していただきたいと思っている。全コメントをつけるのは大変だが、事前に色々な意見を出せば、事務局としても事前準備ができ、きちんと回答ができるものだろう。このところ、欠席者が多いが、休まれる方は基本的に事前に何らかのコメントを出すべきではなかろうかと思う。

事務局：事務局としてもできれば事前にいただければ、説明の時間にとられるよりも指摘に対して議論が進められる。説明の中でいいたいこともあるが、説明は事前に見ていただいているということが前提となる。とくに来年度、1時間市民大学についての説明をしていただくので、お願いしたいと思う。なければならないで、「いい」ということを書いていただきたい。

委員：私は全部コメントをつけて2時間半かかった。前は4時間半から6時間かかった。事務局もしっかり作ってくれているので、やはり読んで事前に「この部分だけは」という部分の意見を書いていただきたい。ポイントだけでもよいので、とくに休みのときは書いていただきたいと思う。

事務局：宜しく願いいたします。来月から新年度になるのでシートを変更する、ご了承いただきたい。

事務局：今回は4月20日月曜日午前中でのこちらの会場となる。